

編集後記

東日本大震災においては地震や津波、原子力発電所からの放射線による避難指示などにより日本中に甚大な被害と影響をもたらしました。隣県の学校においても多くの児童・生徒が犠牲となりました。犠牲者の方々のご冥福をお祈りするとともに、一刻も早い復旧を願っております。

山形県においても物不足や計画停電など今までの生活に戻っていない現状にあります。被災地の住民の方はもちろん、消防、警察、自治体でも捜索や復旧に昼夜を問わず全力で取り組まれています。電力会社、自衛隊も被曝のリスクを負い活動をしています。海外メディアでは非常時でも暴動も起きず治安の保たれている日本を高く評価しているようですが、日本中で一人ひとりが被災者を思い、我慢すべきことは我慢し秩序が保たれています。苦境から立ち直す正しい手本を示せば生徒や子供たちの代になったときに活かされるのではないのでしょうか。逆に避難所では家を流され家族を亡くした中学生や高校生が清掃や炊き出しの仕事を自発的に行っています。何もしていなかったら、もっと辛いのかもかもしれません。自分たちが社会の一員である感覚と行動が生きていくためのエネルギーに変わるのかもしれない。

『工業教育やまがた 第48号』編集にあたり、資格取得や各校の取り組みをまとめる作業をしている時に、今回の震災が発生しました。写真の中の生徒を見ていると、過去にあった当たり前の日常が妙に懐かしく思えます。これから製造業も復旧作業や物流の回復など課題は多い中、今年度の高校生の就職状況がどのように推移していくのかも気にかかるところです。まずは工業高校として、今できることを生徒と共に考えていきましょう。

最後になりますが、各校の先生方におかれましては、お忙しい中原稿の執筆やデータの取りまとめ等を頂き誠にありがとうございました。

「経験とは起きたことをいうのではなく、起きたことに対して、どう判断し行動したかをいうのです。」

先人のことばより

平成22年度工業部会事務局 担当 竹田 晴 誉